

大志の学び舎

世田谷区立太子堂小学校



『教師は授業 家庭は愛情 地域で育つ 9年間』

7月の目標

人格の完成を目指して
「良心」

<安全>

- ・知らない人に
気を付けよう。

<保健>

- ・夏を元気に過ごそう。

<給食>

- ・正しい食事をしよう。

<挨拶>

- ・相手の顔を見て
挨拶をしよう。

身近な会話から

校長 廣瀬 維謙

学校生活の中で子どもたちの会話を聞いていると、単語で話している場面を見かけます。文章で話さなくても、単語だけで話が通じてしまうからです。時として、私たち大人も子どもたちが話す単語の内容を理解し、単語で返答してしまうだけでなく、それをよしとしてしまう傾向があります。

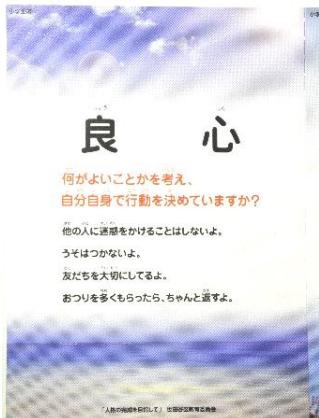
例えば、学校から帰ってきたお子さんに「今日、どうだった？」と聞くと、「楽しかった」「普通」「疲れた」「別に」「いろいろあった」など、一言返ってくるだけで会話が終わってしまうことはないでしょうか。大人も「楽しかったならいいか」と思い、それ以上会話は続くことはありません。

会話の基本は、「自分の考えや思いを相手に正確に伝えること」です。自分の考えていることを文章で伝えられるようになるには、返しが単語で終わる「今日どうだった？」という聞き方では、子どもには十分ではありません。大人であれば「今日どうだった？」という質問にはいろいろな意味が込められているのを察して、聞いた人の気持ちを考えます。それは、その質問の仕方には、話題を決めない広さをもっているから便利であること知っているためです。

しかし、子どもにとっては答えにくい質問となります。子どもは、一日の中で「ここ」「これ」と即座に選ぼうとしないので「家を出て、学校で□□があって、△△をして・・・」と、一日の説明を求められている感じてしまいがちです。そのため「今日どうだった？」ではなく、「今日の国語の授業はどうだった？」とか「今日の給食はどうだった？」などと、ある程度質問を絞ることが必要です。「楽しかった？」だけではなく、「◇◇さんと今日何をして遊んだの？楽しかった？」と話を引き出せるように、子どもが答えやすい具体的な質問を心がければ文章で返ってくるはずです。

私も、子どもたちと話すときには、文章で話をするように心がけています。短く話しかけるよりも、少し長めに具体的に話しかけると、よく聞いてくれます。また、できるだけ子どもの話を遮らないで聞こうとも心がけています。そうすれば、発達段階こそありますが、どの子も文章で返すことができます。実は、身近な会話は、思いを上手に伝える練習なのかもしれません。

さて、ついこの間、始まったと思った1学期も残り3週間で終わりです。学習や生活のまとめをしっかり行い、誰もが達成感をもって夏休みを迎えるよう努めてまいります。



〒154-0004

世田谷区太子堂5-7-4

電話 03 (3413) 4621

FAX 03 (3413) 4799